

平成31年度の管理運営状況 (カヌー・スラロームセンター)

指定管理者:株式会社 協栄

大項目	中項目	確認項目	特にアピールしたい点(具体的に)、改善点等
管理状況	適切な管理の履行	施設・設備の保守点検	<p>[新規施設における管理体制の構築]</p> <ul style="list-style-type: none"> 都へ許可をいただき業務開始2カ月前より建設最終段階、機器のチェック等に立会いし、各機器メーカーとの連絡体制の構築と、直接説明を受けることで機器への習熟度を高める機会を設けた。 機器メーカーの説明、引継ぎを基に作成した点検表で日常点検を実施、安全な施設環境を構築した。 大きな故障はなかったが、攪拌機の初期不良など、構築したメーカーとの連絡体制の下、都担当課へ「報告」「連絡」「相談」を徹底、報告書として文章に記録し、適切に対応した。 <p>[東京2020大会準備工事・仮設管理棟への対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> 仮設管理棟でも安全で快適に利用いただけるよう、仮設手洗い場の設置、未舗装動線部分や熱対策として人工芝マットを購入し敷くなど対応した。また工事段階に応じ動線が変更される中、組織委員会、施工業者との連絡を密にし、バテーションなどによる動線確保と、巡回により来場者の安全確保をした。 <p>[東京2020大会を見据えた設備点検]</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京2020大会を見据え、点検周期ではない機器も含め、各施工メーカーによる定期点検を実施した。
		水上競技施設の維持管理	<p>[衛生的な水質管理]</p> <ul style="list-style-type: none"> 季節に応じた運転スケジュールにより、管理基準の親水基準を満たす水質管理を行った。 巡回で漂流物等を取り除くほか、水中用クリーナーを用いて日々清掃活動に取り組んだ。未使用時においても定期的に起流・揚水ポンプを稼働させることで管理開始当初と比較しコケの発生を緩和した。 <p>[日本初のカヌースラローム場のポンプ管理]</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規施設となることから各種ポンプの初期数値を計測し、その数値と比較して日々各機器の計測をすることで軽微な変化でも見逃さないよう記録した。 競技コースの利用に対し、15分前に揚水ポンプを立ち上げるなど、実際の運用の中で利用に応じた安全で効率的な機器の運転手順を確立した。 <p>[年に1回となる初の換水清掃・点検の実施]</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前に都担当課、組織委員会、水道局、下水道局、公園など関係各所と綿密な調整を行い、作成した作業スケジュールに基づき、工事等に干渉しない安全で確実な、2カ月半に及ぶ作業を実施した。 コース内・外周清掃、各種点検のほか、換水期にしか実施できないクラック等の破損個所の確認・修繕を計画し、実施した。給水後は機器メーカーとともに試運転・調整をし、計画通り利用を再開した。 日常点検のほか組織委員会委託業者のポンツーンの増し締め、調整に参加するなど施設特有の設備についても積極的に点検し、施設への理解を深めた。
		人材育成	<p>[多言語への対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外からの競技者が多いことから、受付スタッフは英語対応が可能な人材を常時配置。さらに翻訳機を導入し、英語以外の言語を使用する利用者にも対応できるよう工夫した。 <p>[施設に特化した教育の実施]</p> <ul style="list-style-type: none"> 中心スタッフに河川の安全に特化したスイフトウォーターレスキュー講習会へ参加させ、資格取得をさせた。また年度2回以上の避難訓練及びCPR&AEDの研修を実施した。 全スタッフが受付、監視、清掃業務をできるよう教育し、人員の重複を減らし効率的な運用をした。
		施設の提供	<p>[場内ルールの策定]</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内初の施設の安心安全な利用を可能にするため、海外施設などを参考にルールの構築(コースサイドのライフジャケットの着用エリアの設定、ポンプ稼働前の安全確認ルールの設定)をした。 <p>[公募時想定との再調整、料金の検討]</p> <p>想定と施設の現況に相違がある(①フィニッシュプール:揚水ポンプ稼働時に流れが発生及び水位変動があること。そのためポロ競技での利用見込みが大幅減/オイルチェーン設置により利用可能水域が減少、②競技コース:利用可能人数30名想定が実際25名程度など)ため新料金体系の提案を行った。</p> <p>[NHK杯・テストイベントへの施設の提供]</p> <ul style="list-style-type: none"> オリンピック競技大会前のテストイベントとなるため、東京都、組織委員会、NFなど関係各所との事前の打合せを密にし、運営に支障が無いよう施設点検・貸出備品等の準備を実施した。
		安全性の確保	<p>施設・設備の保守点検</p> <p>[「危険」に対する積極的な処置]</p> <ul style="list-style-type: none"> 起流ポンプの吸込み事故防止のためポンプ施工業者と協力し、起流ポンプ吸込み防止柵を設置した。 利用者の足元の安全を確保するために、コース外周のクラック(ひび割れ)箇所を補修した。 コース外周にプラチェーン・ポールを設置し、容易にコース際に立ち入れないように工夫した。 <p>防災への配慮・緊急時対策</p> <p>[台風・水害等への対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> タイムライン防災を前提に災害対応マニュアルの策定と事前に都と協議・想定し、降水量・台風予想進路等を共有した。土嚢設置、養生での施設補強、屋外備品の固定、回収等で最小限の被害に留めた。 日常から葛西消防署や葛西警察と連携体制を構築。イベント時には事前に情報共有し有事に備えた。
事業効果	事業の取組	自主事業の実施状況	<p>[認知度を高め、オリンピック機運を醸成する自主事業の実施]</p> <ul style="list-style-type: none"> 都内事業者と連携したラフティングツアーを実施。定員の9割が予約で埋まり、565名に参加いただいた。参加者の95%以上が満足したと回答。メディアで広く取り上げられ、施設認知度を高めた。 弊社社員を始めとする日本トップ選手、指導者によるカヌー講習を実施、定員に近い参加数となった。 葛西臨海公園と連携し、公園に来場された方など、愛好家のみならず広く施設やカヌーを知っていただくため、施設見学ツアー、遊覧ラフティングを実施。最終的に7日間で690名参加いただいた。 <p>[プレゲームストレートニング(PGT)・ジャパントレーニング(JPNTレ)の実施]</p> <ul style="list-style-type: none"> 各国選手が参加する公式練習会PGTを実施。スタッフによる案内、看板など英語、多言語対応に加え、各国の挨拶を事前に調べ準備するなど、世界からの選手、関係者を迎え入れた。 NFと連携して事前にゲートの調整方法を研修し、選手にストレスのないトレーニング環境を提供した。 工事により本設艇庫が使用できなかったことから、選手、組織委員会の要望に応じ、仮設艇庫を設置した。また江戸川区へ協力を要請し、区内近隣施設に艇を保管できるよう手配した。
		利用者ニーズの把握・満足度	<p>[利用者アンケートを実施し利用者のニーズを把握]</p> <ul style="list-style-type: none"> PGT・JPNTレ、ラフティング事業、カヤック講習で利用者アンケートを実施した。施設への評価、プログラムへの満足度も高く、特にラフティング事業についてはプログラムに対する満足評価が9割を超えた。 利用者ニーズに応え、仮設管理棟時からWi-fi環境を整備した。
<p>[作成上の注意事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 挙げていただく項目数に制限はありませんが、A4で1枚に収まるようご作成ください。 ご提出いただいたプレゼンテーション資料は、評価委員会の会議資料として、後日、オリンピック・パラリンピック準備局のHPに掲載します。 			